しましまプラス トピックス

沖縄と宮城 ヒマワリの絆

仙台高と首里高交流

【那覇】研修旅行で沖縄を訪問した仙台市立仙台高校の2年4組の生徒34人が4日、首里高校の2年7組の生徒41人と交流した。仙台高側が東日本大震災の教訓やヒマワリの種がきっかけとなった沖縄との絆、首里高側は沖縄戦や基地問題についてそれぞれ発表、意見を交わし親交を深めた。

那覇 沖縄戦や震災学ぶ

仙台高からの提案で、旅行前に手紙を送り交流が始まった。対面した両校の生徒は、沖縄と宮城県の気候の違いなどで話を弾ませた。

「めんそーれの意味は？」。うちなーぐちのクイズには、仙台高の生徒は同じグループの首里高の生徒から聞いて答えていた。その後、沖縄戦と首里高の関係を皮切りに沖縄戦の経緯、基地の過重な負担や騒音などについて説明した。仙台高の本間柊太さん(17)は「人ごとではない。沖縄戦について学びたい」と語った。

仙台高側は、東日本大震災の被害と教訓から、大地震の可能性がある沖縄でも避難経路の確認や自分で守る行動など防災の意識を学んでほしいと訴えた。鈴木梨紗子さん(17)は「語り継ぐ人がいないと、震災も戦争も分からない。風化させないことが大切」と話した。

首里高の赤嶺咲愛さん(17)は「身近に感じていなかった。避難訓練を真面目にやろう」と認識を新たにしていた。

また、沖縄の家族から被災地を元気づけようと仙台高に贈られたヒマワリの種の話が紹介され、校内で育ったヒマワリから取れた種が首里高の生徒にプレゼントされた。研修旅行を引率した佐藤ゆかり教諭は「首里城の火災を受けて、私たちが励ます立場になった」と話した。

沖縄戦や東日本大震災のほか、地元の話で意見を交わした＝4日、那覇市・首里高校